

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「子どもたちへ本物の音楽を届ける訪問コンサート2024」事業

一流の音楽家が音楽に触れる機会の少ない人々を訪れ、
本物の音楽を通じて豊かな人間性を育む

1992年から「みどり教育財団東京オフィス」として活動を開始し、文化・芸術の振興と子どもの健全育成を目的として活動してきた「ミュージック・シェアリング」（2002年NPO法人化）は、本物の音楽を通して人々のクリエイティビティを高め続けるだけでなく、音楽家の社会貢献活動に対する理解を深める場としても精力的に活動が続いている。

日本全国18カ所の学校や福祉施設などで 一流音楽家が音楽の演奏や指導を実施

「ミュージック・シェアリング」は、人々にとって本物の音楽、音楽家をもっと身近なものになるようにし、豊かな人間性をめざすための環境作りの手助けを行っている。たくさん子どもたちや高齢者が教養を高め続けられるように、本物の音楽を通じて活動し、その内容を常に見直し、時代に先立って新たなプログラムを創造し続けている。

活動の柱となるのは、①楽器指導支援プログラム（音楽大学の学生や卒業生からなるサポーター・アーティストによる特別支援学校の生徒たちへの管弦打楽器の演奏指導）、②訪問プログラム（五嶋みどりさんをはじめ協力アーティストが小学校や特別支援学校、病院などを訪れ、訪問先のニーズにあわせたコンサートを実施）、③ICEP（五

嶋みどりさんと若手演奏家によるカルテットが、アジアの国々で音楽を通じて国際交流を図る）、④Play&Joy！（地理的、社会的に遠隔な状況に置かれた子どもたちの入所施設、学校などをサポーター・アーティストが訪れ、楽器体験や演奏指導、コンサートを実施）の4つのプログラムである。

POSCも助成団体の一部となって2024年に実施されたのが、日本全国18カ所の学校、特別支援学校、医療機関などで行われた五嶋みどりさんを中心とするICEPメンバーによる訪問プログラム（6月5日～20日）と、秋の訪問プログラム（11月5日～28日）で、前者には約1,900名、後者には約4,060名の参加者があった。

参加者からは、勇気を与えられた、幸せな時間に浸れたなどの感想が多く寄せられた。



一流の音楽家が特別支援学校、医療機関などに訪れて演奏や指導を行う訪問プログラム



助成団体:認定NPO法人 ミュージック・シェアリング

<http://www.musicsharing.jp/>



©Timothy Greenteld-Sanders

参加してくださった方々に有意義なプログラムを提供できたと思います

この度、POSCからの助成に採択されましたことに心からのお礼を申し上げます。手厚い助成により、本年も規模を縮小することなくプログラムを実施できました。今後も貴財団の目的の一つである「子どもの健全育成事業」の真髄に沿うような活動を続けていきたいと思っています。

認定NPO法人 ミュージック・シェアリング
理事長 五嶋みどりさん

子どもの健全育成と、SDGsの目標のうち『貧困をなくそう』『すべての人に健康と福祉を』『質の高い教育をみんなに』の実現に資する活動への支援

「ギャンブル依存に陥る若者のための居場所作り」事業

孤立やメンタルの不調からギャンブルに依存する若者に
仲間と過ごす時間や活動する機会を提供し回復を支援

2019年に発足した「サンカクシャ」は、親や身近な大人を頼れなくても、安心できる居場所を確保でき、信頼できる大人と出会い、働く自信や生きていく意欲がわいてくるような支援の仕組みやセーフティーネットの構築などに取り組んでいるが、新たにギャンブル依存の傾向にある若者を集め、孤立予防や生きる意欲を回復させるための支援を開始した。

ギャンブルに依存しやすい若者のために 居場所を開放し、外出の機会を作る

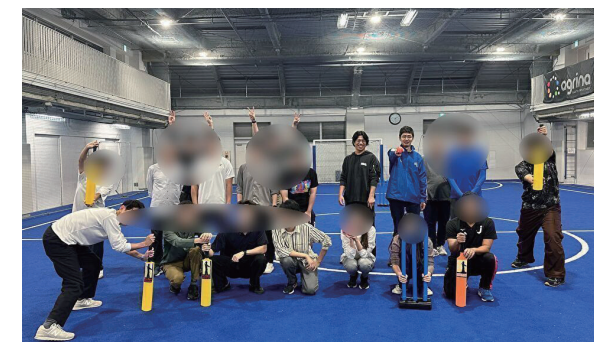
核家族化、地域の支え合いの減少、虐待などの影響により、家族を頼ることができず、家に居場所がない若者が増加している。そうした若者たちが行き場を失い、闇バイトや貧困ビジネスなどの様々な危険にさらされ、犯罪の被害者や加害者になるケースも少なくない。若者のための居場所作りに取り組んできた「サンカクシャ」も、利用者の多くが虐待などの影響により対人不安やメンタルの不調を抱え、働けない若者が多い。こうした若者たちから、暇つぶしや快楽の欲しさからギャンブルにのめり込み、依存してしまうという相談が増えている。一緒に過ごす仲間がいないこと、働けないこと、孤立していることで、より依存の傾向が強まることがわかったので、当団体ではPOSCの助成金を活

用して、ギャンブル依存の若者たちを含めた居場所作りに取り組んだ。

2024年4月から、従来の活動で使用している居場所を毎週火曜日に開放し、個別対応日とした。約1年間で46回の開放日があり、のべ144人、実数53人が利用した。これは通常（水・木・土曜）の居場所の利用平均と比べるとかなり少人数だが、対象者をギャンブル依存などに絞ることで、一人一人とゆっくり話す時間を設けた。また、期間中に若者を連れて外出する機会を作り、フィールドアスレチック、スポーツ体験、泊まりがけのキャンプ、地方訪問、ドライブ面談、農業体験などを行った。本事業での取り組みを通じて、2025年1月には経済同友会と連携し、こども家庭庁へ「親を頼れず孤立する若者支援に関わる提言」を提出した。



若者たちは農業体験やスポーツ体験を行った



助成団体:特定非営利活動法人 サンカクシャ

<https://www.sankakusha.or.jp>



若者が抱えている困りごとの背景に目を向け、社会全体で応援していきたい

近年、困難を抱える若者への支援の必要性が少しずつ認識されているものの、特にギャンブル依存などは自己責任とされがちで、まだまだ支援が不足しています。ギャンブル依存からの脱却はとても難しいものですが、細く長く伴走していくことの必要性を感じました。

特定非営利活動法人 サンカクシャ
代表理事 荒井 佑介さん